

エジプト・ナイルデルタの灌漑と農民水利組合

エジプトは古代からナイル川の水を利用して、ナイルデルタで灌漑農耕が行われてきた。デルタ地域では土壌が粘質なため水盤灌漑による耕作が多く行われており、米や豆類、牧草、野菜などが中心に栽培されている。エジプトでは途上国の例に漏れず人口増加が進行しており、食糧増産は国の重要課題となっている。このため、近年ではナイルデルタ周辺地域に灌漑水路を延長し、農地拡大が進められている。

昨年から今年にかけて、ナイルデルタの灌漑地を視察する機会を得た。今回、視察できたヌバリア地区はナイルデルタの西に位置している。灌漑水は、ナイルにつながるヌバリア運河より3箇所ですポンプ揚水し、当該地へ送水されている。就労機会の創出という目的もあり、新規開拓地へは多くの投資家、入植者が入ってきている。ナイルデルタの灌漑地は上記のごとく比較的粘質土壌である反面、新規開拓地は砂質土壌であるため、水資源の効率的利用の観点からドリップ、スプリンクラーによる節水型の灌漑が義務づけられている。また、限られた水資源の有効利用のため、塩分を含む排水を10-15%程度混入して灌漑している。

灌漑水は大規模な運河による水が配水されているため、灌漑水の円滑な配分のためブロック毎に水利組合が組織化され、水管理がなされている。水利組合長からは入植後、数年間は灌漑により多くの作物が栽培できるようになり、冬作では小麦、アルファルファ、空豆を、夏作ではスイカや各種野菜が栽培されるようになったと聞かされた。しかし、年を追うごとに、地下水位は上昇し、塩害が発生、そして大幅な収量の減少で農業を継続することが出来なくなったと言う。こうした問題の原因は、全て排水路の未整備によるものであった。政府への働きかけにより、排水路が設置され、ようやく今日の栽培が継続できるようになったようだ。

排水路の整備には水利組合が大きな役割を果たしていた。水利組織からの強い要望で政府も灌漑水路を設置した。水利組合は単に灌漑水の配水に責任を持つばかりでなく、農民の要求の把握、組合員の意見調整、そして政府との交渉窓口としての役割を担っている。ナイルデルタ内では、水管理組織の形成に関しては住民の利害、水路の上下流の住民の利害、また周辺住民との関係からなかなかうまくいっていないケースが多い。デルタ内の排水路は、生活排水の流入や生活廃棄物の不法放棄などにより非常に汚くなっている。円滑な水利用のため JICA でも水利組合の設立・運営支援の協力を行っている。乾燥地では伝統的な農業地であるオアシスにおいて伝統的な水管理組織が形成され、脈々と受け継がれてきているが、こうした場所での経験やアイデアは新規開拓地での灌漑に生かせないのだろうか。

(2007 年 3 月、財津)



新規開拓地の灌漑水路と排水路



水利組合員 (手にするのは組合ペナント)



ナイルデルタ内の排水路